

3、出土人骨

第2主体部からほぼ全身の骨が発見されました。

古墳時代の前期、中期を通じて大型古墳の被葬者の全身骨が出土するのはきわめて希なケースです。東北地方ではまったく類例がありません。関東地方でも茨城県三昧塚古墳から下半身の骨を中心に出土した例が比べられる程度ですが、全身ではありません。視野を全国に広げても私の知る限りでは中期で広島県三ツ城古墳、前期では熊本県向野田古墳などが挙がる程度です。灰塚山古墳第2主体部出土人骨は、古墳時代支配者の全身骨が出土した東日本で唯一の例だと思えます。人骨の出土例を直径20m程度の古墳まで広げれば福島県郡山市正直27号墳、山形県戸塚山127号墳などの例があります。これらは集団内の有力者の骨と見られます。

それでは支配者の全身骨からどんなことが分かるのでしょうか。

まず、支配者の性別、年齢、身体的特徴、病歴などが骨の観察から分かります。また、今後C14年代測定法、DNA分析、窒素同位体分析など様々な分析を行えば被葬者の死亡年代、どのようなヒトのグループなのかが分かる可能性が高いのです。またひょっとしてどのような物を食べていたのかも分かるかもしれません。さらに顔面部分の残りの状態が良ければ被葬者の顔を復元できるかもしれません。これまでのに知られている良好な全身骨格は古い時代に発掘されており各種の分析もあまり行われていません。第2主体部出土全身骨は最新科学を用いて古代王者の具体的な姿にせまることのできる希有な資料なのです。

最後に

7年間にわたる発掘調査により、喜多方市灰塚山古墳が古墳時代中期の大型古墳であることが分かりました。古墳の姿、埋葬された棺と副葬品、埋葬された人物の骨格などから会津盆地を支配し、喜多方に本拠をおいた支配者の姿を知ることができました。今後は更なる検討、分析をすすめ会津盆地を素材に東北地方の古墳時代の歴史を解明していきたいと思えます。

謝辞

調査にあたり、土地を所有される小汲康浩区長をはじめとする新宮区の皆様には調査の実施にご快諾いただきました。また、喜多方市教育委員会には調査の遂行に多くのご配慮をいただきました。植村泰徳、渡辺展好、片岡洋、山中雄志、田部成彦、上野正典、後藤直人、田部文市、渡辺和男の各氏には調査に多大なご協力をいただきました。株式会社ふたばの皆様には3次元計測、ドローンによる空撮を実施していただきました。近輝夫氏、近ノリ子氏には宿舎をご提供いただきました。皆様に心から感謝申し上げます。